

随想

名寄の昔、そして今のあれこれ

—大正世代のエース 中山正泰さんのこと—

上川北部医師会会長 中村 稔

VOL.2 から 6 まであれこれ書いたが VOL.7 の時は公私ともに忙しくて投稿できず、短大年報に書いた“脳死と臓器移植”を転載した。今となつて思えば時宜を得た話題だった、と思っている。その後、“臓器移植”が立て続けて実施され、国民の意識に或る程度の変化があったかも知れないが、実態はそう変わっていないのではないか。かつての“密室医療”に対する不信感、縄文期から日本人の基尽に流れる広い意味での宗教意識（これについては、短大年報 18 号 19 号で稿を改める）、地域格差などであろう。今後も、医療例から国民に向けて地道で息の長い情報発信が必要なのではないか、と思っている。

—閑話休題—

VOL.6 まで書いたように、明治生まれの 4 人の先人達が永年にわたり名寄のためにつくされ、影響力を持っていたと言ってもよい。しかし、石川義

雄さんの晩年や逝去によってその時代は終わった。その依鉢を継がれたのが中山さんである。

名寄商工会議所名誉会頭中山正泰さんは、名寄の名門中山家の二代目、名寄 J・C を設立して初代理事長をつとめ、やがて名寄商工会議所会頭として永年にわたり、公事につくされ、名寄市のみならずこの道北経済界の最重鎮だったと言っても過言ではない。受賞歴や公職は数知れず。若くして藍綬褒賞、その後勲 4 等双光旭日章叙勲、名寄市文化賞、防衛庁長官表彰受賞の栄に浴している。

大正 10 年に先代が造られ現在でも残っている名寄最古の本格的なレンガ造りの蔵には、明治以来の保存資料が多く残され、特に昭和 36 年労働会館の全焼によって市の資料が殆んどなくなった後、折りにふれて市や公共団体に資料を提供されている。上川北部医師会史や補遺上梓にあたって、多くの資料や個人情報も贈っている。



中山さんの先代寿太郎さんは、明治の三太郎の一人と言われた大物だった。(名寄百話)

中山正泰さんは、旧制名寄中学校卒業時、既に小樽高商(現在の小樽医科大学)の推薦入学が決まっていたが、お兄さんが急逝され、お母様からの強うての要請を受けられて名寄に残ったのである。家業を継承されてからは、時代を先取りする豊かなアイデア、行動力を駆使し、現在の北昭産業株式会社にまで発展させたのである。なお、中山さんの本社ビルは医師会史補遺に書いたように、“名寄案内”で、“門前市となす”とあるように盛業を極めた明治大正時代の名医の一人だった舟橋功医師の舟橋医院の跡地である。

“名寄の日”を“7月4日午後6時”とするように提唱され決定した。

商工会議所会頭時代の施策の柱の一つは“リネンの里づくり”だった。VOL.3に書いたように、現在の麻布町はかつての帝国製麻名寄工場跡地で

ある。西4条南9丁目から南に800m、西に600m。その広大な敷地に工場、職員住宅や神社まであり、お祭りは大変賑やかだった。職員にとっては、旧国鉄に次ぐ大きな職場だったのである。そんな名寄の歴史を知る中山さんならではのアイデアだったが、時代も悪く“リネンの里づくり”も自然消滅しつつあるのは残念である。

私は不思議と中山さんとは御縁がある。北昭産業(株)の産業医であり、中山さんが名寄市文化賞を受賞された時には、私が世話人代表をつとめ、私が受賞の際には推薦者としての労を贈っている又、平成11年9月6日、名寄ロータリークラブの40周年記念式典が開催され、中山さんが祝典委員長、私が祝典実行委員長として恙なく、盛会裡のうちに終了できたのは本当によかった、と思っている。余言ながら名寄ロータリークラブの現在のメンバーで、名寄市文化賞受賞者は中山さんと私である。

